



東 雲

秦野市立東小学校 令和3年6月2日発行



引き取り訓練は中止になりましたが、ぜひ家族でお話を

コロナ禍ですが、いつ起こるかわからない大地震や、近頃増えている豪雨など気候変動への「備(そな)え」も大切です。「引き取り訓練」は中止になりましたが、いざというときに「子どもたちのお迎え」をお願いするにあたって、次のようなことをイメージしていただければと思っています。

① まずは大地震の発災にともなう リアルな対応をイメージしましょう

実際に大規模な震災が起きると、すぐにお迎えなどはできません。東日本大震災を思い出していただければと思います。万が一、大規模地震が発生したら、保護者の皆さんは、次のような状況が考えられます。

② まずはご自身の安全確保、そして自宅に戻り自宅で生活ができるかどうかを確

かめることになります

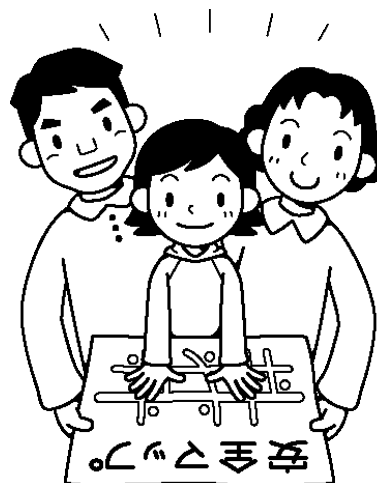
ご自身の安全を確保していただき、そばにいる家族の安否を確認しあい、自宅にいないければ自宅に戻って見て被災状況を確認、その上で自宅で生活できるかどうかを判断し、学校にいる子どもたちを迎えに行くという流れになります。学校は授業中なら、そのまま、子どもたちをお預かりして、お迎えがくるまでの間、寝泊まりする可能性もあります。学校は、そうしたことも前提に考えています。

③ 「子どもたちのお迎え」の時刻は、災害の規模や状況によって変わります。

実際に被災すると、その災害の規模によってお迎えができる時刻は、ご家庭によって全く異なります。早くお迎えに行きたくても、できないのです。場合によって、保護者の方ご自身、電車が動かず身動きが取れなかったり、地震でケガをされてしまったりして、お迎えに来られないことだって想定しておく必要があります。

「ほんとに大きな地震がきたらそうしたことも考えられるんだよ。なので大地震がおこったとしても、あまり困らないよう備えておこうね。」ということです。

また、子どもたちが登下校中に発災した場合も考え、その場合、保護者も教員も子どもたちの安否を確認しようとしています。登下校中、歩いていて地震にあったときに、何をどうすればよいか、ご一緒に考えていただければと思います。



(ウラ面もご覧ください)

もしも大規模な地震が発生したら、

次のように行動なさることを、お勧めします。

(1) まず、保護者の方ご自身の安全を確保してください。

- ・小学校では最善を尽くして、子どもたちの安全を確保しています。
- ・避難生活は、小学校が避難所になります、最も安全です。

(2) 震災が起きたら、小学校のホームページを見てください。

- ・安否情報や避難生活にかかわる情報を定期的にアップします。
- ・停電等でインターネットが通じないこともあります、その場合はNTTの災害伝言ダイヤルや小学校にある掲示板等にて情報を発信します。
- ・ほかの学校や会社にいる他の家族の安否情報を確認しましょう。それができないこともありうると想像しておきましょう。

(3) 自宅の被災状況を確認しましょう。

電気、ガス、水道、下水、通信などのライフラインの被災状況によって、その後の生活が大きく変わります。

- ・まずは帰宅して、被災状況を確認してください。
- ・そもそも自宅に辿りつけるかどうか。自宅に住めないときの避難生活場所を家族で決めておく必要があります。それが小学校になる可能性もあると思います。
- ・小学校にお迎えに来ることができても、家庭で生活できない場合があります。家で食糧、水、トイレ、照明、暑さ寒さ対策は大丈夫なのか確かめます。



(4) お迎え手段を検討しておきましょう。

- ・勤務先などからの移動手段を確認しておきます。公共の交通機関は止まっています。どうやって帰宅するか、家族で話し合っておいてください。
- ・会社には水や食糧はありますか。被災日は勤務先に泊まるのか、徒歩で帰宅するのか、また被災地以外の親戚や知人に依頼するのかなど、帰宅と子どものお迎えの方法をシミュレーションしておきましょう。(ここを「引き渡し訓練」の機会に考えてほしいと思っています)

(5) 小学校での「避難生活」も考えられます

- ・電気ガス水道など全てのライフラインが断たれた状況を想定し、発災後、数日間は小学校で寝泊まりができるようにします。ただし子どものお風呂はありません。清拭でしのぐことになるでしょう。学校は、避難生活が落ち着いてから徐々に再開することになります。

大きな地震や水害は、いつ起こるかわかりません。新型コロナウイルス感染症が心配な状況ですが、感染防止対策も考えながら、万が一に備え、**命を守る行動を第一**にご家族でのお話し合いをお願いできればと思います。ご理解ご協力を引き続きよろしく願いいたします。